今すぐ点検 火災から命を守ろう！

本市の昨年の火災発生件数は、8件でした。本年は、6月末時点ですでに8件の火災が発生。うち3件は建物火災で、1人の尊い命が失われています。いま一度、1人ひとりが防火の意識を高め、火災を起こさないようにしましょう。

住宅用火災警報器の点検を！

建物火災で命を失う原因の中で一番多いのは逃げ遅れです。有効な手段は、煙や熱を感知し、音や光で火災を伝える住宅用火災警報器の設置。設置後も火災に備え、定期的に点検してください。

警報器が有効に作動する期限の目安は10年です。詳しくは、製品の取扱説明書などで確認し、期限を経過したものや作動しないものは交換しましょう。

ためらわずに逃げる！

炎の大きさが自分の背丈を超えるか天井に届いたときは、自力で消すことは不可能です。命を最優先に、消火はあきらめて逃げてください。

逃げる時のポイントは▽持ち物にこだわらない▽一度逃げたら戻らない▽高齢者や障害のある人がいる場合は、避難を優先する▽火元から離れるように逃げる▽逃げ遅れた人がいる可能性がある場合は、消防隊に伝える―です。

コロナ対策も火災に注意！

アルコール消毒液や飛沫防止用シートは、引火の危険性があります。火気に十分注意して使用してください。 ※消防署で実演

飛沫防止用シート

- 火気や白熱電球等の熱源となるものから距離をとる
- スプリンクラーや火災警報器から距離をとる
- 難燃性か不燃性のものを使用する

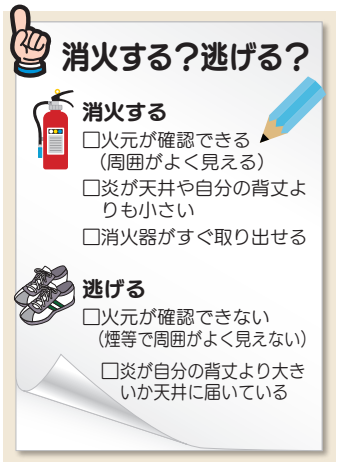
アルコール消毒液使用時

- 火気の近くで使わない
- 多量に噴霧しない
- 使用時には換気する

アルコールの炎は見えにくくキケン！

手指消毒直後の喫煙

- 手が完全に乾燥してから火を付ける



消火の判断は？

火災では一瞬の迷いが命取りになります。上記のポイントに留意して、消火・避難の判断ができるようにしましょう。

あやべ topics

西日本豪雨から2年

土砂崩れで3人が犠牲になった、平成30年7月豪雨災害から2年。市と施福寺自治会は7月5日、上杉町で追悼式を行いました。式には遺族や地域住民のほか、救助にあたった自衛隊や警察、消防団など約50人が参加。黙とうをささげ献花し、犠牲者に哀悼の意を表しました。

遺族の笹井定昭さんは「皆さんが悲しい思いをしないよう、災害の怖さを伝えたい」と述べました。

旧市民センターで救助訓練

消防本部は6月24、25日の2日間、並松町で解体中の旧市民センターで、近隣の消防本部と合同の訓練を実施しました。訓練は大地震で崩壊した建物からの被災者救出を想定。実際の建物を使った訓練は本市では初めてです。構造の分からない壁や床に安全に効率よく穴を開けて救助することで、より実践に近い訓練ができました。

市立病院に新任医師

青野町の市立病院に7月1日、麻酔科の大西佳穂医師が新たに赴任しました。着任に当たり、大西医師は「あまり知られていない診療科ですが、手術中の患者さんの安全と快適さを守ることが主な仕事です。安心して手術に臨めるよう、また術後も快適に過ごせるように心掛けています」と話します。

大きなウメを収穫

市は6月23、27日、舘町の市梅林公園で梅のもぎ採り体験を実施。2日間で延べ34組59人が来園し、175㌔のウメを収穫しました。本年のウメは昨年に比べて大きく、良質。梅酒や梅干し、ジュースにするなど、来園者同士での会話も弾みました。

3セク4社 決算報告

コロナに負けず さらなる努力

市内の第３セクター４社がこのほど、定時株主総会を開催。昨期の事業・決算を報告し、今期の事業計画などを決定しました。今期は新型コロナウイルスの影響を受けて、既に厳しい経営状況です。各社は安定経営に向け、早期回復を目指します。

農夢 ― 京みず菜

安定供給に向け設備改善

京みず菜などの栽培を手掛ける農夢は6月20日、定時株主総会を開催。経常利益181万円、純利益160万円を報告しました。また、同日付で白波瀬清孝氏が代表取締役に。前代表取締役の四方勝一氏は、取締役会長に就任しました。

昨期は平成30年7月豪雨の被害を受けた生産設備もおおむね復旧。しかし、京みず菜を中心とした出荷量が122・8㌧（計画比79㌫）と大幅に減少しました。これは猛暑と害虫の発生、冬季の市場価格低迷などが影響したことが原因です。次の猛暑に向け、同社はビニールハウスに使用する遮熱資材を増設。京みず菜の生育不良を解消し、生産性の向上を目指します。

今期は売り上げ回復に向けて新たな品目を導入。土壌改良や施設改善も視野に入れ、夏季・冬季の安定した出荷体制を目指します。

同社の製品は化学肥料を使わず、有機質肥料のみで栽培

京都市場でも高い品質が評価されている農夢の京みず菜

エフエムあやべ ― 76・3FM

市民に寄り添う番組制作

コミュニティラジオ局「FMいかる」を運営するエフエムあやべ（井関悟社長）は6月12日、定時株主総会を開催。経常利益335万円、純利益169万円で、10期連続の黒字を報告しました。

昨期は一昨年に実施した市民アンケートをもとに、地域の情報に重点を置いた「いかる街角ニュース」を制作。毎日3本の地域ニュースを発信するなど、リスナーのニーズに合わせた、地域密着型の取材を積極的に行いました。

今期は新型コロナウイルスの影響で、イベントや広告の減少による収入減が予想されます。新規スポンサーへの提案営業や福知山、舞鶴のFM局と連携した番組の企画提案などで受注増を目指します。今後も「わが町の放送局」として、情報発信やイベントの司会・音響、ドローンを使用した映像制作などを実施。地域に必要とされる事業に取り組みます。

黒谷和紙協同組合と共同でポーチを開発。伝統産業の振興にも寄与しています

感染症対策にアクリル板を設置して放送

緑土 ― あやべ温泉

リニューアル生かし事業実施

睦寄町のあやべ温泉などを運営する緑土（永井晃社長）。書面決議による定時株主総会で、純損失308万円を報告しました。

前期は、一昨年に行った大規模リニューアルの効果を最大限に生かすため、二王門赤カレー＝**写真左**＝の販売や増税前の価格で入浴できるプラチナ回数券の販売などを実施。来客が少ない冬場は、無料バスの運行回数を減らすなど経費削減に取り組み、一定の成果を得ました。しかし、2月中旬から新型コロナウイルスの影響が出始め、宴会や宿泊のキャンセルが多く発生。経営に大きな打撃を受けました。

今期は経営回復に向け、売り上げ拡大を狙った弁当販売事業への参入や通信販売サイトを開設予定。また、敷地内に大型迷路等新たなアクティビティの導入を計画するなど、業績回復に努めます。

あやべ温泉のレストランで提供している二王門赤カレー。レトルト商品も販売しています

市民を対象に配布しているコミュニティパスポート。原則１世帯１枚配布で、大人1人600円のところ450円で入浴できます

本紙14面に温泉入浴無料券を掲載。１枚につき１人１回、無料で入浴できます。ぜひご利用ください。

水夢 ― あやべ健康プラザ

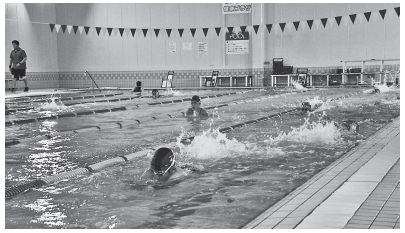
会員からJrオリンピック出場

青野町のあやべ健康プラザを運営する水夢（山本雄史社長）は5月19日、定時株主総会を開催。経常利益487万円、純利益365万円を報告しました。

昨期は近隣施設に▽お試しチケット付きチラシの設置・配布▽特典付き会員紹介制度の広報▽LINE@やインスタグラムなどSNSの有効活用―など、入会者の獲得に注力しました。また、スクール会員の水泳選手コースから1人が、ジュニアオリンピックに出場。認知度が高まり、スイミング教室は7人増、体操教室も1人増となりました。

今期は市立病院と連携した運動療法教室や市内企業での身体スキャン測定会を実施。新型コロナウイルスの感染拡大の影響による会員減少の早期回復を目指し、安全・安心な施設づくりや会員獲得につながる仕組みづくりに取り組みます。

感染症対策に、器具の間隔を空けるよう配置を変更


全国大会出場者を出した水泳選手コース。同会員から６年ぶりの出場となりました